

このコーナーは市内のいろいろな出来事を紹介するコーナーです。皆さんの身近な出来事をお知らせください。

◆連絡先
安芸高田市 政策企画課
☎ 42-5627
〒731-0592
安芸高田市吉田町吉田791番地



安芸高田市を歌い 震災復興への祈り 応援の会設立5周年記念ふるさと創生コンサート

「市の魅力を広め、市をもっと元気にしたい」との思いで設立された安芸高田市ふるさと応援の会は、今年で5周年を迎えられました。

6月5日(日)、5周年記念のコンサートが、クリスタルアージュ・大ホールにおいて、500人を超える市民の参加のもと、盛大に開催されました。

市出身の歌手、真木洋介さん・新宅美奈子さんをはじめ、ゲストに南一誠さん・早苗ネネ(元じゅんとネネ)さんが加わり、ふるさとをテーマにしたステージに観客は終始魅了されました。また、高尾六平(役者・声優)さんのトークや吉田高等学校、向原高等学校の生徒による応援ステージもあり、ふるさとを思う気持ちは、きっと熊本地震で震災された方へも届くことでしょう。



日本各地の伝統芸能が大阪駅構内に大集合！ 地域伝統芸能フェスティバルin時空の広場

5月21日(土)・22日(日)の2日間にわたり、北は新潟県から西は福岡県まで、総勢16団体が、JR大阪駅構内特設ステージにおいて、より選ばれた伝統芸能を披露しました。

市内の錦城神楽団が、安芸高田神楽協議会として、ひろしま安芸高田神楽を舞い、1000人を超える観客は、脈々と受け継がれてきた歴史を間近で体感され、大きな歓声が沸き起こりました。

今後も、日本の伝統芸能として、安芸高田神楽を発信していくことがより一層、期待されます。



広がる地産池消とそば文化 三矢そば打ち道場オープン

5月26日(木)、御里茶屋(吉田町・少年自然の家の隣)を会場に、市民を対象とした「三矢そば打ち道場」が開講し、堂々のオープンを迎えました。

この道場は、安芸高田市地域振興事業団の運営で、地産池消の推進とそば文化の普及を目的に、今年2月のプレオープンを経た後、応募された1期生5名が5週連続(1回2時間程度)の集中講座により、市内産のそば粉を使った本格的なそば打ち技術の習得を行います。

そばの名店「有限会社一福」の指導のもと、2期生は6月27日(月)から技術を磨き、そば文化を広げます。



「木の駅」が安芸高田市にも実現できるといいな!! 「木の駅」に対する市民の思いが集結!!

6月1日(水)、クリスタルアージュ小ホールにおいて、「近年、山林に対する関心が薄れ、荒廃した山林が各地域に拡大し、有害鳥獣イノシシやシカの住処となり、里山をはじめ森林の再生が大きな課題」という認識のもと、「中山間地域が主役「木の駅」勉強会～木の駅って何? どうして?」が開催されました。

全国的な取り組みである「木の駅」の発起人として知られる丹羽健司氏を講師に迎え、講演会と事前申込者から抽選された18名の市民が座談会形式で、「山への想い」、「木の駅の今後の進め方」について話し合い、期待の声や意見が多数寄せられました。



華やかで伝統ある はやし田で“サンバイ”を迎える

5月29日(日)、国の重要無形民俗文化財である原田はやし田をはじめ、川根、本郷、桑田や中北で伝統のはやし田が行われ、小雨にもかかわらず、多くの観客で賑わいました。

田の神“サンバイ”を迎えるため、飾り牛や早乙女の歌・田植えの実演、大太鼓の力強いリズムに、華やかさとともに古くから受けつがれてきた伝統と稲作の有難さを、深く感じる一日となりました。

川根はやし田には、川根小学校全児童が出演し、練習の成果を披露し、歓声も大きかったようです。



第24回広島県北部神楽競演大会 さつき選抜2016 in 神楽ドーム

5月28日(土)、さつき選抜が開催されました。今大会から、競演の部の出演団体が公募で選ばれ、新舞の部・旧舞の部、それぞれの部で4団体が選抜出場を果たしました。安芸高田市からは錦城神楽団(美土里町)が「武蔵ヶ原」という当団オリジナルの演目で新舞の部に出場し、日頃の成果を競い合いました。磨かれた技を一目見ようと1,000人を超える観客が詰めかけ、迫力ある演技にどよめきや歓声があがり、神楽ドーム内は活気にあふれていました。



甲立古墳だけじゃない! 安芸高田古墳探訪ツアー開催

5月7日(土)と6月4日(土)、市歴史民俗博物館主催の古墳探訪ツアーが開催され、計40名の市民らが参加しました。安芸高田市には1,000基以上の古墳がありますが、石室が残る中馬八ツ塚古墳群(吉田)、小型前方後円墳の白鳥古墳(高宮)、今年国史跡となった甲立古墳(甲田)、珍しい方墳の戸島大塚古墳(向原)の4ヶ所をバスで巡り、様々なタイプの古墳の魅力を体感しました。一行は学芸員の解説に耳を傾け、巨大な石室などを築いた古の人々の技術に驚いていました。